

花瓶

気がついたら押し売りされていた
装飾の美しさが捨てる判断を鈍らせる
結局は利益のために作られたものなのに
高尚な意図があるものとされてしまう
ただそこにあるだけで
場所を取り、埃を溜め、
藁を掴む手に幸福の烙印を押される
こんなもの、と投げ出そうとすれば
無責任な網に絡まって掬い上げられる
花を一つ挿してくれたっていいのに

空っぽのままなのが嫌になつて
花屋の端っこのガーベラを買う
ただ情性で挿して、枯れれば捨てる
褒める奴なんかいない
下手くそだと罵られもしない
『オリジナリティ』の一言で片づけられる
お前にもあるような物言いだな
目も当てられないのは分かつてる

雨和七瀬

だからってこれ見よがしに鼻をつまむな
お前の分はママが世話してくせに
そのくせ嫌いな色なら嫌がっただろうに
青臭ければ誰も寄って来なくなるんだらうけど
一度で良いから水を分けて欲しくて
花の香りをちゃんと恨めずにいる

あー、やっぱり花の世話も埃の掃除も面倒だ
誰かがうっかりで割ってくれないかな
悪者扱いされたそいつに片づけて欲しいな